

ハチ刺され被害防止マニュアル



平成 2 4 年 3 月

大分市教育委員会安全衛生委員会

(教 育 総 務 課)

まえがき

毎年夏から秋にかけて、全国各地でハチに刺される被害が相次いでいますが、本市でも、昨年８月に学校現場において樹木の剪定作業中に職員がスズメバチに襲われ、負傷した事例が報告されています。

特に学校現場においては、屋外での作業等が多く、場合によっては児童・生徒を含めた集団被害が発生するケースも想定されることから、ハチの習性等について熟知しておくことが重要であると思われます。

そこで今回、ハチ刺され被害の未然防止と、被害発生後の適切な対応を図るため、ハチの生態や習性や刺された後の適切な処置方法などを記載したマニュアルを作成いたしましたので、ご活用いただければ幸いです。

《 目 次 》

1.	ハチの種類について	…	2
2.	攻撃的になる時期について	…	3
3.	「攻撃」までのプロセス	…	3～4
4.	ハチの毒について	…	4
5.	屋外作業時の注意事項	…	5
6.	刺された後の一般的な対応	…	6
7.	被害発生後の主な連絡先	…	7（省略）

1. ハチの種類について

ハチは世界で10万種以上が知られていますが、人を刺すハチはスズメバチ、アシナガバチの一部の種に限られています。

特に、スズメバチ種のうち、オオスズメバチとキイロスズメバチは攻撃性が強く、集団被害の原因となるのもこの2種がほとんどで、興奮状態になると単独で攻撃してくることもあります。

一方、アシナガバチは、スズメバチに比べると攻撃性はかなり低く、直接捕まえたり巣をいじらない限りほとんどの場合大丈夫ですが、毒の成分がスズメバチと共通する部分が多いため、万一刺された場合、体質によっては**※アナフィラキシーショック**を起こす危険性がありますので、十分な注意が必要です。

※アナフィラキシーショックについては、別項「4. ハチの毒について」で説明します。

【主な（危険な）ハチの特徴】

ここでは、最も危険なスズメバチ2種と、代表的なアシナガバチ1種の特徴を一覧にしています。

	オオスズメバチ	キイロスズメバチ	セグロアシナガバチ
性格	スズメバチの種類の中でも最大級の大きさで、攻撃性も毒の強さも最大。夏～秋にかけて猛威をふるう。	攻撃性・威嚇性が強い。巣に近づくだけでも攻撃してくることがある。	攻撃性はやや強いが、刺激しない限り、攻撃してくることはない。
外見	（働きバチ） 体長27～40ミリ （女王バチ） 体長43～45ミリ	（働きバチ） 体長17～24ミリ （女王バチ） 体長25～28ミリ	体長21～26ミリで、アシナガバチ種の中では大型。
発生時期	5月～11月	5月～11月	4月～10月
巣の特徴	土の中や樹洞などに作る。	球形で模様は貝殻状。軒下・天井裏・木の枝などさまざまな場所に作る。	巣柄が巣の中央にあり、大きくなるにつれて巣の背面がそり上がるのが特徴。

2. 攻撃的になる時期について

スズメバチやアシナガバチの巣は夏の終わりから秋（８月～１０月）にかけて規模が最大になります。働きバチの数も多くなり、攻撃性も強くなるため、ハチ刺され被害の大半はこの３ヶ月間に集中していますので、この時期の屋外での作業には十分注意が必要です。

3. 「攻撃」までのプロセス

ここでは最も危険といわれるスズメバチの一般的な攻撃パターンについて説明します。

①偵察バチによる「警戒」

巣の数メートル～１０メートル以内に近寄ると、周囲を飛び回り、巣の表面に多数のハチが出てきて警戒体制に入ります。作業範囲内でスズメバチの巣を確認した場合は、巣の近くで大声を出したり、強い振動を与えたりしないように注意しましょう。

②偵察バチによる「威嚇」

さらに近づくと、まとわりつくように周囲を飛び回り、大アゴを噛み合わせて「カチカチ」という威嚇音を発します。この音が聞こえたら、頭（黒色）を隠し姿勢を低くして、ゆっくりその場を離れてください。

威嚇（カチカチ）音を無視して巣のある枝や土中の巣の近くを通ったりして巣を振動させると、偵察バチが空中に噴霧したフェロモンや、興奮した働きバチによって巣の中に散布された警報フェロモンに反応し、一斉に攻撃を開始します。

③巣への直接的刺激・破壊に対する「攻撃」

興奮したハチは一斉に巣を飛び出し、威嚇行動なしにいきなり刺しに來ます。興奮が激しいと、噛み付いたまま何度も刺すため、重症になることもあります。

また、興奮したハチは「侵入者」を執ように追いかけます。その距離は数十メートルに達することもあります。

万一攻撃を受けた場合は、スズメバチは自分の目線より低い場所は見えないため、姿勢を低くしてゆっくり避難してください。

また、手やタオルなどでハチをはらう行為は、相手の攻撃をエスカレートさせるため、絶対にしないでください。

特に、オオスズメバチの場合は「警戒」からいきなり「攻撃」の段階へ移行することが多く、巣が大きい（働きバチが多い）場合には、巣を刺激していなくても速やかに現場から離れないと、スズメバチがいきなり「攻撃」の段階に達することもあり、極めて危険な状況となります。

4. ハチの毒について

スズメバチやアシナガバチの毒は「猛毒」で、頭部に近い場所を刺されると、最悪の場合死に至ることもあるので要注意です。

また、毒液が目に入ると、激痛を引き起こし、さらに毒液の量が多いと角膜剥離による失明の危険性もあります。

また、ハチの毒は、人によってはアナフィラキシーショックを引き起こします。

※アナフィラキシーショックとは、ハチ毒等によって引き起こされるアレルギー性ショック症状のことで、初期症状としては、嘔吐・頭痛・めまい・顔面蒼白などの症状が見られますが、重症の場合は、呼吸困難・血圧の低下・意識の混濁を引き起こし、最悪の場合死に至ることもあります。



5. 屋外作業時の注意事項

(1) 服装・持ち物など

- 屋外での作業では、長そで、長ズボンに軍手、帽子をかぶり、できればその上に雨カッパなどを着用します。
ハチは「黒」に対して激しく攻撃性を示しますので、極力白色や黄色系の着衣を身に着けるようにし、夏場でもなるべく肌が露出しないようにしてください。
- ヒラヒラするもの・純毛製のもの・香水やヘアスプレーなどの化粧品のニオイ・音や振動（虫よけの超音波発信機など）にも、ハチは敏感に反応しますので、極力身に着けないようにしてください。
- 万一の場合に備え、市販の殺虫スプレー（ハチ専用のもの。スプレー剤が途中で無くならないように、十分な量があることを確認してください）を携帯するようにしましょう。

(2) 作業前の準備

樹木の剪定など作業を行う際、木の茂みの奥にあった巣に気がつかずハチの巣を刺激してハチに刺された、という話をよく耳にしますが、こうした作業を行う場合は、事前（作業の1週間ほど前）に樹木等に薬剤（殺虫剤）を噴霧しておくと効果的です。（樹木等にしみついた殺虫剤の臭いをいやがり、ハチが巣から出て行ったり、新たに営巣しなくなるからです。）

噴霧作業は、風が強いと殺虫剤が風で散って効果が上がらない場合がありますので、風が無い天気の良い日に風上から噴霧を行うようにしましょう。

※注 意

小さなアシナガバチの巣などであれば、市販のハチ専用殺虫スプレーをハチや巣に向けて1分程度噴霧し続けることで比較的容易に駆除できますが、スズメバチや大きなアシナガバチの巣を発見した場合は、自ら駆除するのは大変危険ですので、関係機関（7ページに掲載）に駆除を依頼してください。

6. 刺された後の一般的な対応

(1) スズメバチなどの毒性が強いハチに刺された場合の対応

(注) スズメバチに刺されたことが明らかな場合は、救急病院（総合病院）を受診してください。

スズメバチなどの毒性が強いハチに刺されると、一般的には、患部の痛み、腫れ、炎症、かゆみ、体温の上昇等が10～15分後に発症します。

その後、嘔吐・頭痛・めまい・顔面蒼白など重症化の症状が現れたら、ハチ毒アレルギーの可能性があるので、直ちに救急車を呼び、救急病院を受診することをお勧めします。

※アナフィラキシーショックの症状緩和には、エピネフリン注射が最も有効です。処方の方法など詳細は医療機関でお問い合わせください。

(2) 一般的な虫刺されの場合の応急処置（軽症時）

- ①患部に針が残っている場合は、ピンセットで抜いてください。
- ②傷口から手で毒液をしぼり出しながら、清潔な水で洗い流してください。
- ③体に回る毒成分の量を減らすため、できるだけ速やかに毒液を市販の器具（ポイズンリムーバー）を使って吸い出してください。こうした道具がない場合は、口で吸い出す方法もありますが、誤って毒を飲み込む危険もあるので絶対やめましょう。
- ④患部の腫れや痛みがあるときは患部を冷やし、虫刺されの薬を塗布して安静にしてください。

※この際、一般的に言われている「アンモニア水（尿）で中和する」は、全くの誤りです。かえって腫れがひどくなるなど、症状が悪化することもありますので、絶対にやめましょう。